

南竜ケビン 酒は進む 話は乱れ飛ぶ

2.7L のウイスキー、1.8L の大吟醸、地元の銘酒やワイン……。

南竜酒場に持ち込まれた酒は品種も多く、量も多い。



初日、二日目とも、南竜ケビンは居酒屋状態。

高齢者登山で体も少々お疲れ気味。その体に、お酒がぐいぐい染み渡る。口も軽くなり、話も盛り上がり、あちこちで脱線。

話題 A

強い絆を作った山小屋建設！！

参加者 12 名全員を強い絆で束ねる共通体験は、何ととっても、半世紀前の倉谷の山小屋建設だ。

建設の主導役であった合津リーダー（当時 4 年）が語る。

- ① 学校・役所との交渉
- ② 倉谷の廃家となる住居の材木を譲り受けるために、家主さんをお願い
- ③ 資金の問題。白山オープン山行で得た利益も一部投入
- ④ 完成後の悩みも多かった。冬の雪でつぶれないかどうか
卒業で金沢を去るにあたり、3 月に一人で山小屋の無事を確認し、安堵
- ⑤ … …

『蝶よ、花よ』と大切に育てられた坊ちゃん、お嬢ちゃんたちが、この重労働の山小屋建設に、喜んで飛び込んだ。そして半世紀後の今も、その大事業を懐かしく思っている。

（この記録誌の最後に、山小屋建設作業の風景を掲載）



KUWV OBに甲子園球児がいるぞ

甲子園球場の場内アナウンス

「ピッチャー 合津」

あの憧れの甲子園球場のマウンドに向かうときは、相当の高揚感が体全体、心全体を覆うたようだ。地に足がつかなかった感じではなかろうか。

そんな大舞台上、どんなピッチングをしたのだろうか。試合には勝ったのかどうか。

さて、投げたのは高校時代ではなく、社会人で、会社を代表して試合に臨んだとのこと。（後楽園球場でも投げたらしい。）

正確に表題を付けるとすれば、甲子園球児ではなく、甲子園球爺かな。（ゴメンナサイ）

そんな貴重な体験の持ち主の名は、合津尚。



南竜ケビン おじさん方の居酒屋談義

話題 B

8年続いた南竜PW 10回までは続けよう

この南竜 PW が決まったのは、2008年9月14日の居酒屋談義。KUWV・OB 総会の二次会（昔のおでん屋『よしだ』の娘さんのスタンドバー）で、山村さんがこの PW を提案したのだ。そして翌年の夏に、13名の者が南竜に集まった。

今年の南竜の居酒屋談義でも、重要事項が決定。

- ① この PW を第 10 回目まで必ず続ける
- ② 第 9 回の幹事は、伊藤俊成さん
- ③ 第 10 回の幹事は、山村嘉一さん

その日までは、健康を維持できるように、各位の日常の健康管理が大事。君もがんばれ、俺もがんばるぞ。

山村さんからの決意メール

(2016年7月30日)

伊藤さん&みなさん

今年も KUWVOB 南竜集中パーワンに無事参加できまして、誠にありがとうございました。

途中危なっかしい場面もありましたが、お陰様で軽い筋肉痛で終わっています。皆様の早いお礼メールや無事帰着のメールが飛び交っているのに、小生はお礼が遅れてすみませんでした。

天候はとても恵まれた状況ではありませんでしたが、なんせ多彩（多才）なメンバーに恵まれ、この上ない楽しみを堪能させて頂きました。

会話の少ない我々夫婦なのですが、今のところ食事時の話題が絶えず、家内からうらやましがられています。しかし、身の程（歳）を考えなさいとか、荷物やビールの量についての厳しい指摘で終わるのですが。

さて、2009年にスタートして5回で終わろうとしたら、9期千葉組を代表して伊藤さんが気持ちよく引き継いで頂き、来年の9回目もお世話頂く予定です。

となると10回目はどうしても小生がやらねばならないかと……。今のところは何とかできるかと思っているのですが、もしかしたら、ケビンの予約だけ、てなことにもなるかも……。まあ前向きに考えようと思いますのでよろしくです。

山村 嘉一

ケビンでの話はぽんぽんと続く



女房に『荷物とビールの量が多い』と言われても俺はやる

2泊3日の小屋泊りの山行なのだがザックの中はつつい膨らむ。

南竜の小屋で彼らに、チーズフォンデュを作って食べさせてあげようかな。喜んでくれるかな。じゃ、食材も火器も十分にパッキングしなくちゃ。

帰りの南竜道の休憩地で、オレンジを出してあげたら、みんな元気になるだろうな。今年もオレンジ詰めていこう。

懐中電灯を忘れる奴、電気切れになる奴、時々いるよな。そんな友のために、スベア持っていこうかな。

これで、大きなザックがパンパンだ。

室堂に着いて飲むビールはおいしんだよ。俺は今年も飲むぞ。みなさん、おいしいよ。飲みなよ。

こんなに優しい男性といつまでも山仲間でありたいね。

その山男の名は、山村嘉一。



「そろそろチーズフォンデュ出来たかな」
「おいしそうね。私、一番に食べよう」

このPWで、名カメラマン達によって撮られた花の写真 (その一部)

白山の花



ミヤマリンドウ



ハクサンフウロウ



ヤマホタルブクロ



ニッコウキスゲ



アザミ



タテヤマウツボクサ



ハクサンダイゲキ



ミヤマダイコンソウ



チングルマ



クルマユリ



エゾシオガマ



ハクサンボウフウ



ヨツバシオガマ



ウサギギク



タマガワホトトギス



クロユリとハクサンイチゲ



タカネマツムシソウ



ミヤマダイヤモンドソウ



オヤマリンドウ



コイチヨウラン



ビデオマン? スキーマン?

第3日目 今年も楽しい南竜PWだった 無事に下山だ



この南竜道はほぼ平坦だが崩れているところもあるね。高齢者にとっては、整備してほしい道だね。気をつけて。

何はともあれ、全員ケガも病もなく、元気に別当出合に下山できた。楽しかったぜ。

いい家族に囲まれ 白山を眺める日常

息子さん家族と同居。もう一人の息子さん家族も近距離に。自宅の庭先からは、白山のピークも望める。

白山行きの前泊組は、奥様から厚いもてなしを受け、更には、おにぎり、お手製の柿の葉すし、ブドウ…等をたくさん持たせていただいた。素敵な奥様。

その柿の葉すしも、帰りの中飯場で、メンバーの最後のエネルギー源として完食。美味しい。

いい家庭環境だね。こんな日常を送る幸せな男の名は、穴田昭一。



合津先輩の安全下山宣言で PW終了 at 別当出合

俺 お坊ちやま!?

A 君：俺、新人トレーニングの山行に、パジャマを持参したよ。

(陰の声：坊ちゃんらしい坊ちゃん)

B 君：かわいい我が坊やを冬山に行かせるわけにはいかぬ…母親は、某大物リーダーの下宿へ直談判に。結果は、心配しながらも愛息をリーダーにゆだねることに。

(陰の声：まさか君は、坊ちゃんでなからう。人は見かけによらないね)

彼ら坊ちゃんの名は、……

(忘れた)。

来年も来ます よろしくお願ひします

先輩の皆さんに、優しくしていただき、楽しい山行でした。何もできない口先人間の私たちですが、先輩たちと一緒になら、来年も登れるような気がします。

甘えん坊の男たちの名は、KUWV 9 期一同。

編集後記

- ・貴重な写真、ありがとうございます。穴田さん 山村さん 篠島さん 保田さん 黒崎さん
- ・最終仕上げでの校正・ご意見等に、多大のご協力ありがとうございました。
- ・白山下山後、5泊6日で黒部源流の山を歩きました。上品な笑顔の81歳のおばあちゃんと全国の山々のトイレ改善に取り組む77歳のおじいちゃんに出会いました。

私たちも老けこんではいけません。見習って、山歩きを続けましょう。

(記録係：鍋島 武)

参考追補版

昭和39年 (1964年) KUWV新入部員トレーニング

資料提供者
穴田 (写真) 鍋島 (記録)



全員集合 at 倉谷の河原



高三郎山登山 残雪あり 1964.5.3

第2班 3年生 宮保洋子 (リーダー)
2年生 山村嘉一 柳川徹 藤井洋治 井上義和 藤平
1年生 金田良子 服部千章 服部芳男 吉田洋次郎 上山巖 鍋島武



山小屋建設用地の整地
1964.5.4

行程概略

5月2日 (土)

金沢=》駒帰バス停

15:05 駒帰発

18:00 倉谷

5月3日 (日)

6:05 倉谷発

11:25 高三郎山頂上着

12:00 " 発

16:00 倉谷着

テント設営・撤収、石油
コンロの取扱、パッキン
グ術の指導を受ける

18:00 キャンプファイア

5月4日 (月)

8:00~11:30

山小屋建設用地の整地

13:30~17:00

山小屋建設用石の運搬
(河原から建設用地へ)

17:30 キャンプファイア

5月5日 (火)

8:00 倉谷発 (第2班)

11:15 駒帰バス停着

山小屋建設用地の整地 (1964.5.4)



山小屋建設用石の運搬 (1964.5.4)

山小屋の基礎に使用する石を、倉谷の河原から建設用地まで、リレー方式で運び上げる

